

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 176 2021. 3. 1

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学技術研究棟 若杉研究室
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 090-1026-1413 FAX:050-3488-5061
E-mail: jsei@ashiya-u.ac.jp http://jsei.jp/home/

＝ 日本教育情報学会 第37回年会 ＝

開催日：令和3年8月28日（土）・29日（日）

テーマ：一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む
教育情報環境の実現

サイバー空間と現実空間が高次に融合する“Society5.0 時代”の到来を前提に構想された GIGA スクールは、「1人1台端末」の導入と学校での高速通信ネットワーク構築をはじめとしたハード面の整備は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、その動きが加速しています。

しかし、教育現場の変化が加速している中、教育ビッグデータ等の教育情報の利活用やデジタル教科書などソフト面の整備についてまだ十分ではない点が見られます。

また、Society 5.0 時代に生きる生涯学習においても、一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育情報環境の実現に向けて、社会のあらゆる場所で ICT の活用が日常のものとなっています。

いわば、新しい学びを実現していくためには「教育情報」が1つのカギを握っているともいえます。

特に、学校教育においては、1人1台端末環境は、GIGA スクールの実現により身近なものになってきました。これまでの教育実践の蓄積の上に、最先端の ICT 教育を取り入れ、これまでの実践と ICT とのベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わると予想されます。

このような教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものとなります。

このように教育現場の変化が加速している中、本年会では様々な視点から“Society5.0 時代”の教育情報について考えます。

今回は、Zoom によるハイフレックス型学会（ハイブリット型学会）となりますが、この年会在、上記の課題の解決に向けて、さまざまな角度から検討・検証する場となることを願います。

第37回 年会実行委員長 齋藤陽子(岐阜女子大学)

開催日：2021年8月28日（土）・29日（日）

会場：【岐阜】岐阜女子大学 文化情報研究センター

<所在地> 〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル4階

<大学HP> <https://gijodai.jp/circ/>

【沖縄】沖縄女子短期大学

<所在地> 〒901-1304 沖縄県島尻郡与那原町東浜1

<大学HP> <https://www.owjc.ac.jp/>

事務局：日本教育情報学会 第37回年会実行委員会

<所在地> 〒501-2592 岐阜県岐阜市太郎丸80番地

岐阜女子大学 齋藤陽子研究室

058-229-2211(代)

年会HP：<http://jsei-nenkai.jp/>

主催：日本教育情報学会

共催：岐阜女子大学・沖縄女子短期大学

後援：岐阜県（予定）、岐阜市（予定）山県市（予定）、

北方町(予定)、白川村（予定）、

デジタルアーカイブ学会、デジタルアーキビスト資格認定機構

日程（予定）

<1日目> 8月28日（土）		<2日目> 8月29日（日）	
10:00～12:00	課題研究	9:30～12:00	課題研究 一般研究
12:00～13:00	休憩	12:00～13:00	休憩
13:00～13:30	総会結果報告 学会賞発表	13:00～14:00	特別セミナー
13:45～14:45	基調講演	14:15～17:00	一般研究
15:00～17:00	シンポジウム		

※変更が生じる場合がありますので、最終版のプログラムにてご確認ください。

※前日に、Zoomの接続テストを予定しております。発表者並びに接続テストをしたい会員の皆様に接続をして確認いただけます。

【1】 基調講演（8月28日（土）13：45～14：45）

「1人1台端末と教育データの利活用による初等中等教育の未来」

・講演者：桐生崇（文部科学省初等中等教育局企画官・学びの先端技術活用推進室）

【趣旨】

文部科学省では、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて、GIGA スクール構想の実現のための取組を推進しています。そのために、端末・ネットワーク整備だけでなく、日常的に ICT を活用できる体制を整備し、デジタルならではの学びを充実させるため、ハード・ソフト・人材を一体とした改革を進めています。本講演では初等中等教育の未来に必要な教育データの利活用について、最新の政策動向や今後の展望をお話します。

【2】 シンポジウム（8月28日（土）15：00～17：00）

「個別最適化と創造性を育む教育と教育情報環境には何が必要か」

- ・コーディネータ：齋藤陽子（岐阜女子大学）
- ・学識経験者 豊福 晋平（国際大学）
- ・教育委員会 検討中
- ・小中学校 上水流 信秀
（情報モラル教育研究所 代表）
鍋谷正尉（渋谷区立小学校）
- ・企業 中野生子
（Google 株式会社事業戦略・教育政策部長）

【趣旨】

“Society 5.0 時代”の新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。これは、時間と距離の制約を取り払い、教育の平準化につながるオンライン教育は、海外との連携授業も視野に入ってきます。また、個別最適化で効果的に学びを支援していくためには、子どもたち一人ひとりの状況を把握し、学習、知識・技能の定着を助ける個別最適化(AI)ドリルの活用なども想定されます。

特に、学習の記録をデジタルで記録することによって児童生徒自らが振り返り学習に活用する学習支援のための教育情報や、個別最適な学習指導・生徒指導を実現する指導改善。そして、大量の蓄積された教育情報を大学等で分析することによって教授法や学習法などの新たな知見を創出するなど、新しい学びを実現していくためには「教育情報の利活用」がキーワードとなります。

また、新たな教育の技術革新により、学習指導要領のコード化がされ、学習履歴をデジタルで蓄積できる環境が整います。その結果として、過去の教育実践記録等の教育情報を学習指導要領のコードと関連付けて利活用することも重要であり、デジタル

教科書やデジタル教材，デジタルアーカイブのコンテンツに学習指導要領コードを付与することで，関連資料を一覧で表示することもできます。

デジタル教科書やデジタル教材，図書館や博物館をはじめとする外部コンテンツの活用を促し，社会の多様な力を教育現場で活用していくためにもこれらの教育情報環境が重要となります。

GIGA スクール構想が掲げる「子どもたち一人ひとりに最適化され，創造性を育む学び」を実現するためには，このような教育情報の環境整備が欠かせません。

本シンポジウムにおいては，ハードの整備を含め教育情報を利活用する意義についてさまざまな視点から議論します。

【3】 課題研究

■教育資料研究会

テーマ：個別最適化され，創造性を育む新たな学びの在り方

【コーディネータ】成瀬 喜則（富山大学），又吉 斎（沖縄女子短期大学）

【趣旨】

これらからの教育に求められる「個別最適化された学び」や「創造性を育む学び」を実現するために，これからの「学び」はどのような在り方が重要になってくるのか。このことについて，これまでの教育資料研究会で追究してきた「新たな学び」の在り方を深化させるべく，皆様と研究発表を通して討議する。特に，教育資料，つまりは，学びに必要な学習者のための資料の在り方や学びから得られた情報（学習歴・成果・課題等）をどのように次の学びへ活用するのか等の観点から，「新たな学び」の在り方を追究する。

なお，学びの対象は，幼児から大人まで幅広くとらえ，各々の段階に応じた「新たな学びの在り方」を考えていく機会にできれば考える。皆様方が行われている教育実践から，これらの「知」を得ることができればと願っている。

■国際交流研究会

テーマ：ニューノーマル時代における教育・研究のグローバル化の在り方を模索する

【コーディネータ】陳 那森（関西国際大学），清水 義彦（富山県立大学）

【趣旨】

国際交流研究会では，日本教育情報学会における海外との学術交流やグローバル人材育成の在り方等に関する研究活動を推進している。グローバル化は，コロナで衰退はしないが，国際社会はこれまでにないさまざまな変革を余儀なくされている。

そこで，現況を踏まえ，今回の課題研究では，今年3月中旬に本研究会主催の「ニューノーマル時代における留学生教育の在り方について考える」と題したシンポジウムでの成果を踏まえつつ，それぞれの立場から話題提供をしてもらおうと共に，ニ

ユーノーマル時代における教育と研究のグローバル化が抱える課題と解決策を模索する。

また、今回の課題研究でも海外の研究者に自らの研究成果を発表する機会を提供すると共に、日本の研究者にも国際研究交流の立場で幅広い分野からの研究成果を発表する機会を設け、時空間を超えた国際研究交流も活発化していきたい。

■デジタルアーカイブ研究会

テーマ： オンライン教育におけるデジタルアーカイブの役割

【コーディネータ】井上 透（岐阜女子大学）、皆川 雅章（札幌学院大学）

【趣旨】

2020年にCOVID-19の影響で、教育現場ではさまざまな実体験や実物へのアクセスが制限されるとともに、感染対策の一環として図らずも教育のオンライン化が幅広い分野において促進された。予測されなかった事態への対応としての急速なオンライン化に伴う問題点も種々存在するが、この状況を受身的に捉えるのではなく、ICT利活用インフラの整備が進みつつある中で、オンライン教育の特長を生かした教育方法の改善、教育効果の追求を積極的に展開する方策の検討をする機会をとらえたい。

その一環として、情報へのアクセスに関して時間・空間の制約のないデジタルアーカイブの特性を生かし、これまでに蓄積されたデジタル資源のさらなる利活用が促進されるべきであると考えている。今回の研究会を、MLA、教育機関、企業などからの、さまざまな分野における実践的、理論的な取り組みに関する報告と議論の場としたい。

■著作権等研究会

テーマ： 個別最適化されたオンライン教育の技術と制度

【コーディネータ】坂井 知志（ひとまちなえとわーく）、塩 雅之（常磐大学）

【趣旨】

新型コロナウイルス感染症拡大により、学校教育に導入されたオンライン教育が、様々なレベルで展開されている。導入にあたって学生や教員の情報環境調査を行い、その対応策を立案して実施する機関も見受けられた。それでもシステムがダウンするなどの問題点が起きている。その対応策を明確にし、改善し、公表することにより他の取り組みを支援する機関と未公表の機関が存在している。

また、テキストベースから学習管理サイトの活用、グループワークの導入、対面授業との併用など一人一人の学習者の状況を視野に入れて取り組むことの困難さやその取り組みが著作権などの権利問題との関係があり実施を断念することなどオンライン授業の技術の両面について考える研究会とする。

■ICT 活用研究会

テーマ： GIGA スクールを支える ICT の活用

【コーディネータ】河野 敏行（岡山理科大学），坂井 岳志（八幡小学校）

【趣旨】

「GIGA スクール」によって 1 人 1 台端末の導入と学校内での高速通信ネットワークの実現などハード面の整備が進んでいる中、それらの環境を活かし、多様な子供たちに対応した、公正に個別最適化された学びや創造性を育む教育を目指している。その中で、ICT をより効果的に活用して、教育に活かせるのかについて、情報を共有し、教育方法について議論・開発を進める。

1. 小学校から大学そして社会人などに向けた教育サポートシステムおよび教材の開発
2. 1 人 1 台時代の学習を支える学校や授業の在り方についての研究
3. ICT の活用促進のための具体的な学習環境や教材の開発
4. プログラミング思考力，創造的能力，AI リテラシーを養う教育や授業の開発
5. 時間と空間を超えた遠隔講義システムを利用した教育の開発および活用

2020 年は、遠隔講義が広く実施されたが、場所にとらわれないリアルタイム講義や VOD コンテンツによる時間に縛られない学習など様々に工夫された講義が実施され、その実施内容などを共有しつつ、ICT を活用したより効果的な学習について議論する。

■特別支援教育 AT 研究会

テーマ： 合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー

【コーディネータ】小川 修史（兵庫教育大学），新谷 洋介（金沢星稜大学）

【趣旨】

新学習指導要領を受けて「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和 2 年 6 月)」が公表された。また、GIGA スクール構想の元に、1 人 1 台の情報端末の整備もおこなわれている。しかし、それらの情報機器を障害のある児童生徒が学習に使いこなすためには、十分な配慮と環境の整備が必要となる。

現在、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成 25 年法律第 65 号）の見直しも検討される中、具体的な「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」は緊急の課題といえる。

この「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」には障害に応じた ICT 機器等の活用（アシスティブ・テクノロジー）が重要で、その活用のさらなる発展・普及が期待される。また、障害のある児童生徒の学びを広げるためには SDGs の実現やプログラミング学習における活用なども検討課題となる。

■IR 研究会

テーマ：学習の個別最適化のための教学 IR と DX

【コーディネータ】森 雅生（東京工業大学）、石井 雅章（神田外語大学）

【趣旨】

インスティテューショナル・リサーチ (IR) は、大学経営及び教学運営における様々な意思決定を関連データの分析を通じて支援する取り組みであるが、IR が有するデータや知見は個々の学習者の学習の質を高めるためにも有効な資源と言える。また、BYOD をはじめとして学習者がデジタル・デバイスを日々の学習において日常的に利用するようになった現在、データを有効に活用した学習支援の重要性が増している。

本課題研究では、教学 IR と学習の個別最適化の接点を視野に入れながら、IR データを効果的に活用した授業支援及び学習支援の取り組み実践を幅広く検討し、知見を共有するとともに、データ収集や集約・保管の手法やデータのアクセス権等に関するあり方などについて議論をおこなう。

■プログラミング教育研究会

テーマ：GIGA スクール環境下におけるプログラミング教育の在り方

【コーディネータ】山本 利一(埼玉大学)、小熊 良一（群馬大学）

【趣旨】

プログラミング教育研究会では、各種発達段階におけるプログラミング教育の実践事例を収集すると共に、その効果を幅広く発信したいと考えている。令和 3 年度は、GIGA スクール構想により ICT 環境が整いつつある教室で、「どの様な教育実践が可能か」、「どの様に学習効果を上げるか」など、多くの先生方にご提案いただきたい。

教育のグローバル化や、扱う情報が飛躍的に増加している予測困難な時代を児童・生徒が生き抜くためのプログラミング教育について、協議を深めていくことができると考えている。

■教職開発研究会

テーマ：創造性を育む教育を実現するための授業技術，教材開発（教職開発研究会）

【コーディネータ】佐藤 典子（甲子園大学），治京 玉記（大阪夕陽丘学園短期大学）

【趣旨】

近年、ICTの活用が急速に普及しているが、一人ひとりに適した活用の方法を探り、多様な子供達たちに対応したオーダーメイド教育を行う必要がある。個別最適化を図るためには、まず、教員がICTの活用について理解を深め、それらを活用するための技術を習得する事が望まれる。

本研究会では、教員養成における教育課程，方法・技術，評価，および現職教育に関する教授学習モデルや実践的な研究について取り扱う。創造性を育む教育を実現するためには、それらのスキルを持つ教員が必要とされる。授業技術を習得あるいは向上させるための授業研究の方法を模索し、教員研修に反映させる事も考えられる。そして、PDCAサイクルにより、更なる向上に努め、その成果を教育の場に還元する事が必要である。

教員養成，カリキュラムの検討は様々な分野で検討する事が必要であるため，授業技術，教材開発，評価について，幅広い分野，校種での各位の教育実践を紹介いただき，様々な視点から討議を深めたい。

■遠隔教育研究会

テーマ：個別最適化され，創造性を育む遠隔教育の可能性（遠隔教育研究会）

【コーディネータ】横山 隆光（岐阜女子大学），熊崎 康文（岐阜女子大学）

【趣旨】

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する，人間中心の社会（Society）を目指し，GIGAスクール構想に着手した矢先，新型コロナウイルス感染症対策による休業等の対応で，ICTの格差が顕在化した。同時に，ICTの強みの一つとして，距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができる（双方向性を有する）遠隔教育は，一層，推進されることとなった。

文化庁は授業目的公衆送信補償金の額を認可し，遠隔授業で教科書などの著作物を利用する際，2021年度以降は有償（年額：小学校が120円，大学が720円など）で利用できるように法整備が進んだ。

日常の学びでも非日常の学びでもICTを活用した遠隔教育が活用できる場面は多く，新型コロナウイルス感染症対策をきっかけに学びを進めることがafterコロナの教育に求められており，個別最適化され，創造性を育む遠隔教育の可能性について考える。

【4】 特別セミナー（8月29日(日) 13:00～14:00）

「学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン」

～GIGA スクール構想と個別最適な学び～

稲垣 忠（東北学院大学）

【趣旨】

GIGA スクール構想により児童生徒1人1台、1人1アカウントの環境と高速ネットワークが整備された。この環境を活かし、学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びの実現につなげるには、従来の教師が授業のどの場面でもどのようにICTを活用することが効果的か？といった考え方から脱却する必要がある。

同様に、児童生徒の「学び」にとって「授業」は多様な学びの場の1つであり、「よい授業」の目的化から脱することが求められている。1人1台、1人1アカウントは児童生徒にとっての学習環境の基盤である。授業の中に閉じていたICT活用から、児童生徒の学びを柔軟かつ包括的に支援する環境の活用へと発想の転換が求められる。

講演では、学習者の学びを支援する理論的基盤であるインストラクショナルデザインの立場から、1人1台環境における学びのデザインについていくつかの論点を提案する。本学会における学習者中心の教育に資する教育情報学研究の広がりを目指したい。

【5】 研究発表申込募集

① 研究発表申込み資格

第 1 発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）であることが必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局（jsei@ahiya-u.ac.jp）に申込み、入会登録手続きを行ってください。

会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある 4 ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。

※研究発表の申し込みや発表原稿の提出時にも、会員番号が必要となります。

② 発表内容について

「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」とは、「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の内容となります。一般研究発表では、希望のセッションを下記より選択してください。

ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

＜一般研究発表セッション一覧＞ ※第 2 希望まで選択

- | | | | |
|-------|-------|------------|-------|
| ・情報教育 | ・教育方法 | ・学習評価 | ・教育実践 |
| ・教科教育 | ・教材開発 | ・デジタルアーカイブ | ・遠隔教育 |

申込時に選択するキーワードは下記の通りです。

教育情報管理, 文献資料, 教材, 電子教科書, デジタル・コンテンツ, 教材開発, メタデータ, 情報カテゴリー, シソーラス, デジタル・アーカイブ, 知的財産権, プライバシー, カリキュラム, 教材研究, 学習評価, 授業分析, 教育システム, 交流学習, 高大連携, 生涯学習, 教師教育, 情報教育, 教科教育, 情報処理教育, e ラーニング, 教育情報システム, 学習ソフトウェア開発, 学習情報管理システム, データベース, 情報検索, インターネット, 遠隔教育, 遠隔教育システム, ネットワーク, プレゼンテーション, 電子黒板, マルチメディア, 国際貢献・協力, 国際理解, 特別支援教育, 高等教育, 専門教育, 技術教育, 初等教育, 中等教育, 情報モラル, メディアリテラシー, アクティブ・ラーニング, 反転学習, FD・SD, IR, 接続教育, ラーニング・コモンズ, キャリア教育, 児童教育, 幼児教育, 人間力, 企業連携, 地域力, 地域連携

③ 発表申込み方法に関するお願い

＜1＞ 発表申込み方法

- ・第 37 回年会ホームページ (<http://jsei-nenkai.jp/>) の各種申込の [発表申込みフォーム] から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・年会ホームページ以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。
- ・申込み後の申込内容変更については、年会ホームページのお問い合わせからご連絡をお願いします。

《2》 発表申込み期間

- ・3月1日（月）～4月30日（金）

《3》 申込み完了メール

- ・Web上の[発表申込みフォーム]からのお申込みが完了すると、お申込み時のEメールアドレスへ『発表申込み完了メール』が送信されます。
- ※申込み完了後は『発表申込み完了メール』が届いていることをご確認ください。

《4》 発表採否通知期間

- ・5月10日（月）頃（発表のお申込が完了した方には、発表の採否をメールで連絡します。）

《5》 原稿作成

- ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（word）をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、課題研究は **4枚**、一般研究は **2枚**とします。

《6》 原稿提出期間

- ・2021年6月1日（火）～7月9日（金）

《7》 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

《8》 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、交代1分です。
- ・一般発表は会員の方のみ発表可能です。

《9》 発表申込フォームの書き方

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく具体的に書いてください。
- ・一般研究については、希望するセッションを選んでください。
- ・上記の一般研究発表のキーワードの中から2～5語以内を選んでください。
- ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して、問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。

《10》 原稿提出フォームの書き方

- ・原稿は、執筆要綱に従い作成していただき、PDF形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。

《11》 参加フォーム

- ・参加申込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。
- ・発表の会場については、今後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえて、後日連絡させていただきます。

《12》 発表会場

- ・発表は、自宅、職場、会場等から発表いただけます。
- ・発表については、Zoomでの発表になります。
- ・年会の冊子を手元においていただき、発表をしていただきます。
- ・Zoomの取り扱い方法や発表の方法については、事前に発表者にお知らせいたします。

【6】 年会の参加方法

① 参加申込

次号ニューズレターで、申込み方法等詳細についてご案内いたします。

② 参加費用

参加費、年会論文集代は下記のとおりです。

なお、支払方法につきましては、次号のニューズレターでご案内いたします。

○参加費

- ・会員 参加費 3,000 円
- ・年会論文集代 4,000 円（郵送費込）
- ※後援教職員・協賛企業は参加費無料

【7】 年会開催までのスケジュール

○発表申込期間	2021年3月1日（月）～4月30日（金）
○発表決定通知	2021年5月10日（月）頃
○原稿提出期間	2021年6月1日（火）～7月9日（金）
○参加申込期間	2021年6月1日（火）～8月6日（金）
○論文郵送申込期間	2021年6月1日（火）～8月6日（金）

【8】 広告掲載募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告を掲載頂いた企業の方には、当日 Zoom にて、製品紹介等(3 分程度の PR プレゼンビデオを放映)をしていただくことが可能です。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしく願いいたします。

広告掲載申込方法などは HP (<http://jsei-nenkai.jp/>) にて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会ホームページのお問い合わせから年会事務局までお寄せください。

協賛（料金：¥30,000）		
広告 1（PR 動画放映） 広告 2（論文集掲載） 広告 3（フライヤー同封）	論文集掲載広告	
	色	1 色（モノクロ）
	頁（寸法）	1/1 頁（天地 240mm×左右 160mm）
	形式	Word, JPEG

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学技術研究棟 若杉研究室
TEL: 090-1026-1413 FAX: 050-3488-5061
E-mail: jsei@ashiya-u.ac.jp HP: <http://jsei.jp/home/>